

2026年度

教職課程通信 Vol. 1

発行：令和8年6月16日
編集：秋田公立美術大学
美術教育センター
教職支援室

創造する教師として、ともに未来を拓く

副学長 毛内嘉威

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

そして、在学生の皆さん、新たな年度のスタートを迎えました。今年度も「教職課程通信」第1号をお届けできることを大変うれしく思います。

本学教職課程には、毎年多くの学生が志をもって集い、教員という未来を担う職業に向けて学びを深めています。教職課程は、単に教員免許状を取得するための場ではありません。教育とは、人を育て、人の可能性を拓く営みです。そして、教師とは、その営みを通して社会の未来を創造する存在です。



秋田公立美術大学の教職課程の大きな特色は、本学が大切にしている「領域横断」「複合的視点」「複合芸術」の理念の上に成り立っていることです。美術を多角的に学び、多様な表現に触れ、新たな価値を創造していく経験は、これからの教育において極めて重要な力となります。現代社会は急速に変化し、学校教育にも従来の枠を超えた柔軟な発想と創造的な実践が求められています。本学で培う自由な発想力と探究心は、教育現場において大きな強みとなるはずです。

実際に、本学の学生が教育実習で展開する授業は、実習校から「独創的で新鮮である」と高い評価をいただいています。それは、美術大学での学びが、単なる技術習得にとどまらず、新たな教育の可能性を切り拓く力へとつながっている証です。

教職の魅力は、子どもの成長に深く関わりながら、自らもまた成長し続けられることにあります。一人一人の子どもと向き合い、その可能性を信じ、ともに考え、ともに創り上げていく。その積み重ねが、人づくりとなり、よりよい社会の実現へとつながっていきます。

皆さんには、美術の学びと教職課程での学びを往還しながら、創造力と人間力を磨いてほしいと思います。そして、日本で最もクリエイティブで、挑戦する教師を目指してください。



教職課程担当教職員一同、皆さんの挑戦を全力で支えてまいります。今年度も、ともに学び、ともに未来を拓いていきましょう。

教育実習関連科目の展望

教職課程では学内で履修する科目に加えて、実際の学校などに出向いて見学や体験を行い、実践的指導力を養う「教育実習関連科目」があります。

1年生の教育実習関連科目としては、前期の「教職入門」と後期の「学校体験実習1」があります。

「教職入門」では、近隣の小学校と隣接する秋田公立美術大学附属高等学院での見学や体験を通して『教職の魅力とは何か?』『美術教育の意義とは何か?』という2つのテーマを追求していきます。

後期の「学校体験実習1」では、近隣の中学校を訪問し、登校時を含めて朝の生活の様子、実際の授業や休み時間中の様子などを丁寧に観察するとともに、学校における組織的な対応について理解を深めます。

2年生では、社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の実習を通して、個人の尊厳と社会連携の重要性を学ぶ「介護等体験実習」と、中学生や高校生を対象にグループで美術科の授業実践を行う「学校体験実習2」があります。次年度の教育実習を見据え、積極的な姿勢で取り組んでいきましょう。

3年生では、教職課程最大の山場とも言える「教育実習」を迎えます。実際に教育実習に向けては、事前の確認を全体で行う「教育実習事前指導」、また教育実習後に成果と課題を整理する「教育実習事後指導」が設定されています。

実習校の先生方が教育実習生に期待しているのは、上手な授業ではありません。実習を通してより多くのことを学びたいという積極的な姿勢と、生徒たちと真正面から向き合おうとする真摯な態度です。

皆さんの健闘を心から願っています。そして、「教師になりたい!」という思いを強くして、一回りも二回りも成長した姿で大学に戻ってきてほしいと願っています。

4年生では、教職課程のまとめとして「教職実践演習」に取り組みます。主に喫緊の教育課題への対応等について、様々な分野の専門家や実際に教壇に立っている先輩たちにお話をうかがうなど、教育現場で役に立つ内容となっています。

教職課程最後の科目に真剣に取り組み、自信を持って教員免許を手にしてほしいものです。



日新小学校での体験実習



中学校での授業実践



教育実習研究授業(中学校)



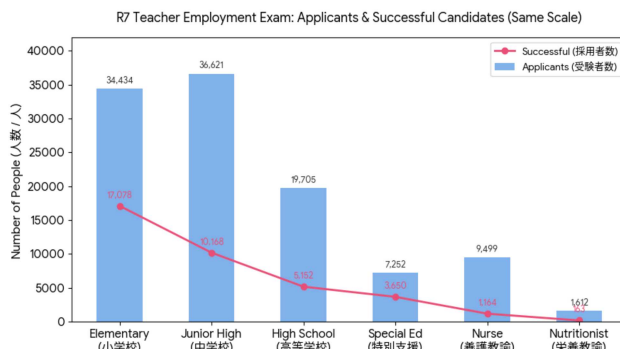
教職に就いた先輩を囲んで

教員採用試験情報

1 教員採用試験の受験者数と採用者数

下記のグラフは令和7年度教員採用試験の受験者数と採用者数を表しています。

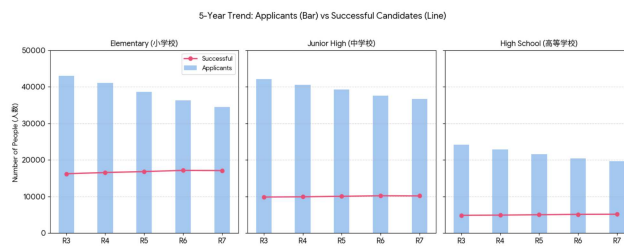
(棒グラフ: 受験者数、折れ線グラフ: 採用者数)



小学校の倍率は約2.0倍、中学校が約3.6倍、高等学校が約3.8倍となっています。中学校は受験者が一番多いものの、採用枠が小学校より狭いため、小学校に比べて競争率はやや厳しい状況です。高等学校もやや高い競争率になっています。

また、下のグラフは、R3からR7まで(5年間)の教員採用試験における受験者数と採用者数の推移を表しています。

(棒グラフ: 受験者数、折れ線グラフ: 採用者数)



中学校の傾向として、直近の5年間で受験者数が約6,000人減少しています。採用者数は10,000人前後で横ばいです。一方、高等学校はR7に受験者数が20,000人を割り込みました。採用者数は5,000人前後で横ばいです。受験者数は減少しているものの、定年延長や、少子化による学級数の減少により、採用者数は横ばいとなっています。

2 近年の教員採用試験の募集内容と選考制度

(1) 試験日の早期化

文部科学省が呼びかけた日に合わせ、1次試験を5月に前倒しする自治体が増えるとともに、従来の試験日より早めに実施する自治体が急増しました。

(2) 教職教養・一般教養試験の廃止や縮小

専門教科の出題数を減らしたり、「教職教養」を完全に廃止(茨城県等)したりする自治体が出てきています。

(3) 「大学3年生受験」の全国的拡大

多くの自治体で「大学3年生」での前倒し受験が可能になりました。3年次に「教職教養」などの試験に合格すると、4年次には1次試験が免除になり、2次試験から臨めることになります。

3 教授セミナー

毎週月曜日5限に実施しています(3年生は随時募集)。2年生は後期から募集を始めます。

教職課程を担当するスタッフ

毛内嘉威（もうない よしたけ）



毛内嘉威です。青森県出身で、秋田に来て今年で14年目になります。専門は道德教育・教育方法ですが、実は大学では農学部農芸化学科で学びました。家では、27歳のカメ「かめきち」と、夜行性のハリネズミ「びの」に癒やされています。

専門の道德教育は、「人はどう生きるべきか」を考える学問ですが、私自身も日々考え続けています。美術には、人の心を動かし、新しい価値を生み出す力があります。皆さんには本学での学びを通して、その魅力を再発見し、創造性あふれる教師を目指してほしいと思います。どうぞよろしくお願いします。

尾澤 勇（おざわ いさむ）



教職課程を履修している皆様、新年度が始まりました。教職の授業や実習で出会う皆さんは、いつも生き生きとしていて、真摯に学び、様々なことを吸収する姿に頼もしさを感じています。

教職の道には大変なこともあります、子どもの成長に関わる、かけがえのないやりがいがあります。

一人ではくじけそうな時も、仲間となら乗り越えていけます。手を取り合い、共に学び、励まし合いながら、一歩ずつ頑張っていきましょう。

大関智子（おおぜき ともこ）



専門は日本画分野で、制作・資料調査・美術教育の3つの切り口から研究活動を行っています。出身地は、名峰・鳥海山が抜群に美しく見える由利本荘市です。実は鳥海山は、暮らしの中で農作業の暦となったり、時には今日明日の気象を教えてくれる頼もしい存在でもあります。（春は山の中心に馬形が現れ、田植えの時期を教えてください）

四季の変化が豊かな秋田での生活は、皆さんの眠っ

ていた感覚を研ぎ澄まし、呼び起こし、新たな価値観をもたらしてくれるでしょう。

まずは1年間、皆さんにとって充実した学びとなるよう応援していきます！

山本尚樹（やまもと なおき）



今年度から美術教育センターに着任した山本尚樹です。出身は広島です。大学進学を機に東京に移住（？）して20年以上、ひょんなことから2年ほど前に青森の弘前の大学に勤め、今は秋田です。

大学生だったころは自分がこんなことになっているとは思わなかったのですが、それでも大学4年間の経験が今に繋がっていると思う今日この頃です。そうした皆さんのかけがえのない大学の4年間の時間の一部を少しでも共有できることが楽しみです。

よろしくお願いします。

嶋崎 公人（しまざき きみひと）



甘い物が好きでついつい口にしてしまいます。体に良くないのに。以前に比べて怒りっぽくなり、テレビに向かってブツブツ文句を言っています。良くないですね。なんか様々なことに抑制がきかなくなっている自分に青ざめます。そういえばこの頃ネットやYouTubeの使用頻度に比べて、本や新聞を読むことが少なくなりました。静かに文字を追いつつあれこれ考えることが減ったことと、現在の短絡的な自分が決して無関係ではないように思います。なので今年は本を読もうと思います。本を読む時間を大切にしたいと思います。皆さんもどうですか。



谷 村 格（たにむら いたる）



「明日死ぬかのように生きよ。
永遠に生きるかのように学べ」

インドの独立指導者であるガンジーの名言です。インド独立運動は、強大な軍事力を持つ英国を相手に、「非暴力・不服従」で立ち向かうという過酷なものでした。ガンジーは、社会を良くするためには、「一人ひとりの人間の内面が変わること」が不可欠だと信じ、山積する国内課題を解決するには「教育」と「学び」しかないと考えました。教職課程を通して内面を磨く機会になれば幸いです。

佐 藤 進（さとうすすむ）



美術の専門性を求めつつ教員免許の取得を目指すことは、傍目から見ると大きな負担に思えるかもしれませんが、教員という職業に魅力を感じている人にとっては、かけがえのない4年間となるはずです。

現在、学校教育は大きな変化の最中にあり、一歩先を見据えての準備が必要です。美術の教員としてどのような資質・能力が求められているのか、教職関連の授業や事業を通じて皆さんと考え、深めていければと思っています。

加賀谷 亨（かがや とおる）



3年生の「教育実習事前事後指導」の授業でのこと。毛内先生からの課題「自分&大学紹介」のプレゼンにグループごとに取り組む様子は、誰もが笑顔にあふれ、実に生き生きとしていました。

（今まで見たことがないくらい！）

小・中・高校時代の作品や大学入学後に制作した作品の数々…。それら一つ一つに、作者としての想いや作品に寄せる愛情が詰まっているようで、とても感心させられました。冊子やデータとしてのポートフォリオではなく、美術を愛する者の生き様としてのポートフォリオが、一人一人の心に形作られていることを痛感しました。本年度もよろしくお願いします。

（ポータルのお知らせやメールを読むように！）

有 馬 寛 子（ありま ひろこ）



岩手出身で、秋田に住んで早くも干支が一回りしました。これまで中学・高校・高専での美術講師やプログラムコーディネーター、学童スタッフを経験しました。最近は助手業の他に、一般向け『レコードとデッサン会』の運営、アーティストの視点を取り入れた美術科題材の開発に取り組んでいます。

いま大切にしているのは「偶然」を楽しむこと。思いがけない出会いは、自分の「こうあるべき」を解きほぐす貴重な機会です。

今年もよろしくお願いします！

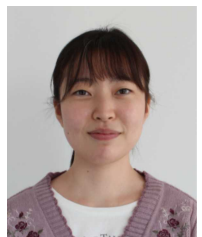
前川原 綾 香（まえかわら あやか）



普段は教職課程のほか、学芸員課程の授業のサポートを行っています。作品制作では油絵具を使用したアニメーションとインスタレーションに取り組んでいます。趣味はプロレス観戦です。道場生時代から応援している選手がヒールユニットのリーダーに就任したため、最近は授業参観のようなソワソワした気持ちで試合を観ています。

そんな彼と同じように、新入生の皆さんは新しい景色のなかを歩んでいる最中かと思います。時には怯むこともあるかもしれませんが、どうか恐れずに突き進んでください。ともに闘い抜きましょう。

佐々木 柚乃葉（ささき ゆのは）



美術教育センター兼基礎教育センター助手の佐々木柚乃葉です。

私は本学の卒業生で、在学中は主にガラス作品を制作していました。今年度からは教職課程の授業に加え、基礎演習など必修の授業でも皆さんと関わる機会が増えることを嬉しく思っています。

新年度が始まって2ヶ月が経ちましたが、大学生活には慣れたのでしょうか。ぜひ、自身の興味関心を深く掘り下げて、表現の引き出しを豊かにしてください。その熱意や意欲を、近くで支えることができれば幸いです。皆さんの大学生活が充実したものになるよう願っています。